



2020年9月17日(木)
愛知県陶磁美術館学芸課
担当 小川、大西、宮川
電話 0561-84-7474
愛知県民文化局文化部文化芸術課
振興第一グループ
担当 岡田、草野
内線 2460・2459
ダイヤルイン 052-954-6183

愛知県陶磁美術館特別展／愛知県埋蔵文化財センター埋蔵文化財展

YAYOI・モダンデザイン

—ニッポンの美、ここに始まる—

YAYOI: The Advent of Japanese Aesthetics

同時開催: あいち^{こうこがくいち}考古楽市—新発見の縄文/弥生資料—

会期: 2020年10月10日(土)～12月13日(日)

弥生の文化は、実用性よりも呪術的な要素が強い土偶に代表される縄文とは対照的に、機能性や普遍性を目指し、整った形や紋様に特徴があります。こうした造形は、日本の伝統的な美の源流になりました。

本展では、弥生時代に生まれた土器などのかたち、色彩、絵画・紋様に焦点をあて、そのデザインや美を紹介します。

本展は11月22日(日)開館する「あいち朝日遺跡ミュージアム」に関連して、愛知県埋蔵文化財センターと愛知県陶磁美術館が共同開催するもので、近年の発掘調査によって出土した代表的な遺物を一堂に集める貴重な展覧会です。

みどころ

- ◆弥生時代を、“歴史”だけではなく、“美”や“デザイン”の視点から紹介する、類を見ない展覧会です。
- ◆愛知県内の考古学的な縄文、弥生の新発見資料も、一堂に観ることができます。
- ◆東海地方だけでなく、全国各地方の遺跡から近年出土した、選りすぐりの土器や木器などが集結する、貴重な機会となります。

- 1 会 期** 2020年10月10日(土)から12月13日(日)まで
休館日：毎週月曜日(ただし、11月23日(月・祝)は開館、11月24日(火)は休館)
- 2 開館時間** 午前9時30分から午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
※ただし、10月10日(土)は開会式のため観覧は午前11時から
- 3 会 場** 愛知県陶磁美術館 本館1階 第1展示室・第2展示室
(瀬戸市南山口町234番地 電話：0561-84-7474(代表))
- 4 主 催** 愛知県陶磁美術館
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
- 5 共 催** 中日新聞社
- 6 後 援** 愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社(リニモ)
- 7 助 成** 芸術文化振興基金(独立行政法人日本芸術文化振興会)

8 主な展示作品 別紙1のとおり

9 関連事業

*全て聴講無料、事前申込不要。定員100名

(1) 記念対談「弥生の美を語る」

出 演：^{まつぎ}松木 ^{たけひこ}武彦 氏(国立歴史民俗博物館教授)
^{はしもと}橋本 ^{まり}麻里 氏(永青文庫副館長)

日 時：10月18日(日) 午後1時30分から午後3時まで

場 所：本館地下1階講堂

(2) 考古学セミナー「あいちの考古学2020」

日 時：①12月5日(土) 午後1時から午後4時まで

②12月6日(日) 午前10時30分から午後4時まで

場 所：本館地下1階講堂、講堂前ホール

内 容：①・プレゼンテーション・ポスターセッション

(愛知県内外の考古学関係団体が発表を行います)

・弥生バザール

(弥生関連グッズ新商品・人気商品の展示即売)

②・ポスターセッション

・弥生バザール

・記念講演「弥生時代とは、何だったのか？」

講師：深澤^{ふかさわ} 芳樹^{よしき} 氏（元・奈良文化財研究所副所長）

・シンポジウム「弥生サミット」

（本展の主要出品資料が出土した遺跡等を発掘調査した担当者が集い、語ります）

(3) 解説講座「YAYOI デザインを語る」

日時・内容：①11月14日(土) 午後1時30分から午後3時まで「弥生のかたち」

②11月28日(土) 午後1時30分から午後3時まで「弥生の紋様」

場 所：本館地下1階講堂

講 師：樋上^{ひがみ} 昇^{のぼる}（愛知県埋蔵文化財センター主任専門員）

10 観覧料

一般 900円(団体 720円)、高大生 700円(団体 560円) 中学生以下無料

* () 内は20名以上の団体料金

11 割引制度

本展では、あいち朝日遺跡ミュージアム及び一宮市博物館との相互割引を行います。

施設名	愛知県陶磁美術館	あいち朝日遺跡ミュージアム	一宮市博物館
割引対象	「YAYOI・モダンデザイン」の観覧料	「朝日遺跡のデザイン」の観覧料	「発掘された日本列島2020」の観覧料
割引額	100円	100円	100円
条件	以下のいずれかを持参 ・あいち朝日遺跡ミュージアムの利用済観覧券 ・一宮市博物館「発掘された日本列島2020」利用済観覧券	以下のいずれかを持参 ・愛知県陶磁美術館「YAYOI・モダンデザイン」の利用済観覧券 ・一宮市博物館「発掘された日本列島2020」の利用済観覧券	以下のいずれかを持参 ・愛知県陶磁美術館「YAYOI・モダンデザイン」の利用済観覧券 ・あいち朝日遺跡ミュージアムの利用済観覧券

その他、身体等に障がいのある方及び付添者（手帳提示）/リニモ「陶磁資料館南」駅等に設置の割引ちらし、リニモ又は名古屋市交通局の「一日乗車券」、ちらし等の割引引換券、JAF 会員証等を持参された方/同一展リピート割など、各種割引制度があります。

詳細は公式 WEB ページ (https://www.pref.aichi.jp/touji/use_guidance/) で御確認又はお問合せください。※各割引制度の併用はできません。

12 問合せ先

愛知県陶磁美術館

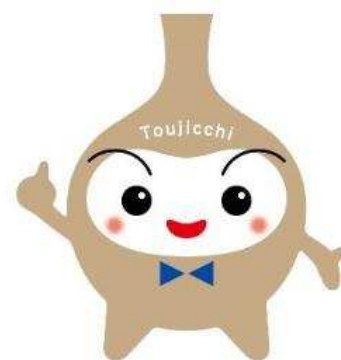
〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

電 話：0561-84-7474（代表）

ファクシミリ：0561-84-4932

メー ル：touji@pref.aichi.lg.jp

**弥生のデザインは、懐かしくて、新しい。
ニッポンの美の原点に、陶磁美術館で出会おう！**



当館マスコットキャラクター
とうじっち

2021年1月9日（土）からは、弥生時代に続く古代の企画展「日本陶磁の源・すえむらよう陶邑窯
—きなげよう猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁—」を開催します。詳細は別紙2を御覧ください。
い。

[YAYOI・モダンデザイン] (第1展示室・約160点) 主な展示作品



1 水差し形土器
奈良県田原本町／唐古・鍵遺跡出土
田原本町教育委員会蔵

弥生の美とは、用の美である

弥生の美とは、モノの機能を追求した結果に生まれた、シンプルな形の美です。この土器は、取っ手と注ぎ口をもち、液体を注ぐのにちょうど良い形をしています。近畿地方でしか見つかっていない、大阪と奈良の境にそびえる生駒山の西側の麓で制作される特産品であったようです。

[展示(1) 弥生デザインの精髓]

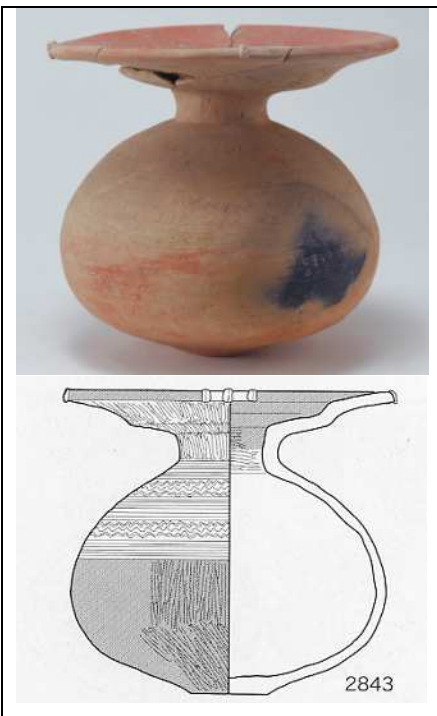


2 銅剣形木製品
岡山県岡山市／南方(済生会)遺跡出土
岡山市教育委員会蔵

儀式用に、木で剣を作る

青銅製の剣の形を模倣して、モミ属の木材を素材として制作したもの。素材を転換したことによって、本来の武器としての機能がなくなり、祭りや儀式で用いられたようです。もともとは腰に帯びていた剣が、槍のような長い柄に付けて用いるように変化したとも考えられています。

[展示(2) 素材の転換、かたちの強調]



(上)3-1
パレススタイル壺
愛知県一宮市／八王子遺跡出土
一宮市博物館蔵

(下)3-2
3-2 パレススタイル壺の実測図
愛知県埋蔵文化財センター作図

赤と白の対比が美しい

器体の下半などにベンガラを塗って焼成し、赤く発色しています。赤彩部分以外の器肌は白褐色となり、櫛描きなどで細かな紋様を描いています。パレススタイル=宮廷式の名称は、古代ギリシア土器の様式名に由来するもので、弥生土器において最も美しいとする評価に基づいています。

[展示(3) 弥生の色彩]



(左)4-1

そうしょくもくせいひん
装飾木製品

石川県小松市／千代・能美遺跡出土
石川県埋蔵文化財センター保管

(右)4-2

装飾木製品の紋様分析図
樋上昇作図

直線と円弧のラビリンス

弧帯紋こたいもんが刻まれた木製品。弧帯紋は、一定の幅をもつ、帯のような図形が土器などに巻き付く有様を表現したものです。分析図では赤線の格子状区分の中に、緑色の三重同心円、橙色の湾曲紋様、青色の「人」字形紋が入り組んで重なっているもので、極めて複雑な構成となっています。

[展示(4) 弥生絵画と造形のデザイン]



(上)5-1

そうしょくつぼ
装飾壺〈重要文化財〉

鳥取県鳥取市／青谷上寺地遺跡出土
鳥取県所蔵

(下)5-2

装飾壺の想定復原図
樋上昇作図

至高の弥生漆器

実物資料は長く土の中にあつたため、形がつぶれて黒くなっていますが、本来は算盤形そろばんの胴部で、黒漆の下地に赤漆で同心円などの細かな紋様を描いて表面を埋め尽くしたものであつたと思われます。現在までに発見されている弥生時代の木製品では、最高級の技と美を反映しています。*展示は12月6日(日)まで

[展示(5) 首長から王へ 権威の象徴]

[あいち考古楽市] (第2展示室・約60点)

主な展示作品



つぼがたどき
6 壺形土器

愛知県北設楽郡設楽町／笹平遺跡出土
愛知県埋蔵文化財調査センター所蔵

縄文系譜と弥生系譜の接触

お墓の棺として利用された壺形土器です。器体の上部を弥生時代の始まりに西日本で流行する遠賀川式土器のデザイン、器体の下部を縄文時代の終わりに東三河で流行する条痕文土器じょうこんもんのデザインで飾る2つの流儀をあわせもつ珍しい土器です。また棺として利用する時に、器体の上部を四角に打ち欠いて再加工しています。

[展示(1) 新発見の縄文/弥生資料]

[次回予告]

企画展

みなもと すえむらよう
日本陶磁の源・陶邑窯

—猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁—

The Mother of Japan Ceramics:
 from the Suemura Kilns

2021年1月9日（土）～3月21日（日）

古墳時代に始まる国内最古の陶磁器—須恵器^{すえき}。それまでの土器とは全く次元の異なる須恵器の登場は、日本史上最大のやきもの革命でした。この革命の地こそ大阪府の陶邑窯で、大和政権傘下の元、須恵器の生産を牽引し、時代の要望に答えながら、奈良時代に到るまで国内最大の陶産地として君臨しました。

本展では、陶邑窯の作品群を以下二つのテーマから紹介します。①古代史の潮流をも読み解ける、陶邑窯のダイナミックな作風の軌跡に迫ります。②陶邑窯に続きやきもの界の主演へと躍り出る、当県の猿投窯の作品を加え、古代のやきものの二大巨頭を並べ、その特徴を見比べます。

陶邑窯を軸に古代のやきものの魅力に迫る、東海圏では類を見ない展覧会です。

- 1 会 期 2021年1月9日（土）～3月21日（日）
休館日：毎週月曜日
- 2 開館時間 午前9時30分から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）
※ただし、1月9日（土）は開会式のため観覧は午前11時から
- 3 会 場 愛知県陶磁美術館本館1階 第1展示室・第2展示室
（瀬戸市南山口町234番地 電話：0561-84-7474（代表））
- 4 主 催 愛知県陶磁美術館
- 5 後 援 愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社

*詳細については、後日別途に記者発表いたします。

「弥生」の次は、「古墳」だ！
 古代の須恵器を、陶磁美術館で見よう！

